

(様式第8号)

事業報告書（令和7年度）

事業名 だれもが楽しめる音楽とお話の場づくり

団体名 音楽と朗読の会「金星音読団」

担当者名 西 由美

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

◎7月19日(土)10:30~11:30・19:00~20:30 操山公民館「夏のソワレ屋の部夜の部」50名
市民どなたでも(内容)昼の部・やなせたかし作品お話と歌(アンパンマンメドレー・絵本朗
読劇)夜の部・山南箏曲コラボ「かぐや姫」朗読劇「銀河鉄道の夜」箏によるジブリメドレ
ー他



◎8月10日(日)13:00~13:30 東公民館「福祉フェスティバル」ゲスト出演 市民どなたで
も

(内容)金星版ももたろう ねこのピート 紙芝居「岡山空襲」



(様式第8号)

◎8月30日(土)14:00~15:30 東山公民館「ざわつく!夏の音楽とおはなしの会」60名
市民どなたでも(内容)山南箏曲コラボ「かぐや姫」朗読劇「銀河鉄道の夜」「スイミー」
箏によるジブリメドレー 三線沖縄メドレー他



◎11月15日10:00~11:30 岡山市立南支援学校 25名 支援学校生徒児童保護者
(内容)山南箏曲コラボ「かぐや姫」「スイミー」 箏によるジブリメドレー アンパンマン
メドレー



◎1月12日(月)13:00~16:00 スタジオトリノス レコーディング メンバー10名



(様式第8号)

◎1月17日(土)14:00~15:30 東山公民館「ざわつく!冬の音楽とおはなしの会」60名市民
どなたでも(内容)朗読劇「銀河鉄道の夜」やなせたかしお話と歌 三線沖縄メドレー他



◎1月24日(土)13:00~14:00 京山公民館「京山ESD・SDGsフェスティバル」ゲスト出演
(内容)読み聞かせ「星につたえて」「ねこのピート」「おおきなかぶ」アンパンマンメドレー



◎2月22日(日)西ふれあいセンター「にじのねたのしいおんがくフェス」ゲスト出演
80名市民どなたでも(内容)朗読劇「ライフ」



◎2月25日(水)14:25~14:50 県立岡山支援学校 生徒教員10名
(内容)読み聞かせ「おおきなかぶ」「金星版ももたろう」「スイミー」



2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

障害や特性のためコンサートなど参加しづらい当事者や保護者・療育者が、自由なスタイルで観覧したことで、音楽や楽器、物語に興味を持ち、その後も継続して観覧に来てくれたり、何度も動画を見て楽しんでくれているとの声がありました。

② どのように学び合いを取り入れたか

新たな朗読作品を提案、演奏者や語り手の輪を広げ、よりよい作品作りのため意見を出し合いました

お客様には、参加型朗読作品で合いの手を入れたり手拍子でリズムを取ったり、一緒に物語に参加してもらいました。

また、当事者の方に特技(イラスト作成、効果音や作曲、動画作成など)を活かして一緒に作品を作っています。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

コンサート前「途中で声を出したり動いたり寝転んだり退場しても大丈夫。自由なスタイルでざわついてかまわないコンサート」と告知しています。一般のお客様も子供たちの様子を温かく見守ってくれています。

なれない場所や人が多くて落ち着かない子用に、会場隣室にモニターを設け、落ち着いて観覧できるようしました。

コンサート後、楽器に触る時間を設け、廃材で作った楽器、三線、琴やハーブなど珍しい楽器に触れ、音色や演奏の楽しさを体験してもらいました。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

今年度は宮沢賢治「銀河鉄道の夜」を主作品に、琴演奏グループとコラボ作品「かぐや姫」、音楽にハープ、三線、クリスタルボウルの奏者を迎え、語り手も増え、当事者の方には特技を活かしイラスト・動画作成や作曲に参加いただき、より厚みのある作品を提供できるようになりました

東山公民館で開催した会では、近隣の放課後等デイサービスに声をかけ、活動の一環として多くの子どもたちが観覧してくれました。また、岡山市立南支援学校・県立支援学校からお声がけ頂き、教室でコンサートを開きました。ほかに、東公民館福祉フェスティバルや児童福祉事業所主催のコンサート、京山公民館 ESD・SDGs フェスティバルにゲスト出演しました。

苦手や特性のある子どもたちが、自由なスタイルでリアルライブ朗読劇や音楽を楽しみ、ご家族にも安心して楽しんでいただける時間を提供できたと思います。

また地域の方には、多様な特性を持った方への理解の一助になれたかとおもいます。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

視覚(映像、絵本)聴覚(朗読、音)にうったえる多様な表現方法を考え、参加体験型の方法を工夫することでより印象深く心に残るようにし、その後の生活に物語や音楽が生かされるようにしたいと考えます。

また、苦手や特性を配慮した会場づくり、客層や環境にあったプログラム構成をし、参加しづらかった方にも気軽に足を運べる機会を作っていきたいです。

障害をもった方たちに得意分野での参加を促しつつ、負担が大きくなるよう見守り、一緒に作品をつくる成功体験を増やし自己肯定感を高めたいと思います。